

聖徳太子

2018 年追試

問 2 大陸から伝来した仏教や儒教に影響を受けた十七条憲法(憲法十七条)における「和」の教えについての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

21

- ① 儒教の教えに ^{のっと} 則って、年長者の意見を疑うことなく尊重し、必ずそれに同調することで「和」を実現すべきである。
- ② 凡夫の身で議論を重ねることの無意味さを悟って、仏の教えにひたすら従うことで「和」を実現すべきである。
- ③ 儒教の教えに則って、他人と意見が対立した場合には、自分の意見を取り下げることで「和」を実現すべきである。
- ④ 凡夫であることを自覚し、自己の主張に間違いがあることを恐れつつ謙虚に議論することで「和」を実現すべきである。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 2	21	④	2

2015 年追試

問 2 日本における仏教受容に大きく寄与した人物に聖徳太子がいる。天^{てん}寿^{じゅ}国^{こく}續^{しゅう}帳^{ちやう}の銘文にみえる彼の仏教理解を表すものとされる言葉として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

21

- ① 山川草木 悉皆成仏
- ② 色即是空 空即是色
- ③ 世間虚仮 唯仏是真
- ④ 一切衆生 悉有仏性

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 2	21	③	2

2011 年本試

問 2 聖徳太子は「十七条憲法（憲法十七条）」で役人に仏教を尊重させ、彼らの心を正そうとした。そのなかには、「凡夫」であることを自覚させることによって心を正そうとした条文がある。その条文の抜粋として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

15

- ① まごころ（信）は正しいこと（義）の根本である。役人はいつもまごころに努めるべきである。……まごころをもてば何事も可能になる。
- ② 人には、おのおのその任務がある。担当者の任命を適切に行え。……事柄の大小にかかわらず適任者を得たならば、世の中は必ず治まる。
- ③ 他人のなした善は、これを隠さないで ^{あらわ} 顕し、また、他人が悪をなしたのを見たならば、必ずそれをやめさせて正しくしてやれ。
- ④ 心の怒りを絶って、……意見の違いに怒らないようにせよ。……他人が怒ったとしても、むしろ自分に過失がなかったかどうかを省みよ。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 2	15	④	3

2007 年本試

問 2 聖徳太子の事跡と伝えられていることとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 15

- ① 無量寿経・観無量寿経・阿弥陀経の注釈書である『三経義疏』を著した。
- ② 儒教や道教よりも仏教が優れていることを説く『三教指帰』を著した。
- ③ 現世を汚れた世界とみなす「厭離穢土，欣求浄土」という言葉を残した。
- ④ 現世をはかないものとする「世間虚仮，唯仏是真」という言葉を残した。

問 3 「十七条憲法」第一条の全文は次のとおりである。この条文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 16

「和をもって貴しとし、^{きから}忤^う*⁽¹⁾ことなきを^{むね}宗とせよ。人みな^{たむら}党*⁽²⁾あり。また^{きと}達^れる者少なし。ここをもって、あるいは君父に^{したが}順^わず。また隣里に^{たが}違^う。しかれども、^{かみやわ}上和^らぎ、^{しもむつ}下睦^びて、事を、^{あげつら}論^う*⁽³⁾に^{かな}諧^う*⁽⁴⁾ときは、^{じり}事理^{おの}ずから通ず。何事か成らざらん。」

- *⁽¹⁾ 忤う：反対する，対立する
- *⁽²⁾ 党：集団，派閥
- *⁽³⁾ 論う：議論する，話し合う
- *⁽⁴⁾ 諧う：調和する

- ① 利害にこだわって他者と衝突するのではなく、親和的關係を結んだうえで話し合いを続けることの大切さを強調している。
- ② みんなの意見が一致することを目指して、慎重に妥協点を探りながら話し合いができる達観者になることを勧めている。
- ③ 他者との対立を回避するために、大局的な立場から自然に道理が通じるような状況を作り出すことの大切さを訴えている。
- ④ むやみに反対意見を出すのではなく、相手の意見を尊重し集団の意向に同調できるような人格者になることを諭している。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問2	15	④	3
第3問	問3	16	①	3

2004 年本試

問 3 聖徳太子が記したとされる「十七条憲法」の中には、煩惱の自覚に基づく条文がある。その条文の要旨として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

23

- ① 聖人や賢人のようには知恵の明らかでない者が 愚癡^{ぐち}である。聖人や賢人のようには才能の及ばない者が不肖である。愚癡不肖であっても良知良能がある。その良知良能を失わなければ、愚癡不肖も善人の徒なのである。
- ② 法による指導や刑罰による規制では、人々は法や刑罰に触れなければよいと思ひ、悪を恥じることがない。しかし徳によって導き、礼によって規制すると、人々は悪を恥じようになり、おのずから善に至るものである。
- ③ 心のなかに 怨^{うら}みを抱かず、怒りを 棄^すてよ。人はそれぞれ自分が正しいと思ひ他人が間違っていると思ひ込む。しかし自分が必ずしも聖人なのではなく他人が必ずしも愚者なのでもない。ともに欲望にとらわれているのである。
- ④ 人間の性質は悪であって、善なるものは偽(人為)である。人間は生まれつき利益を好み、妬^{ねた}み憎んだりする傾向があり、それに従うと争い合い秩序がなくなる。聖人はそれを見て、礼や法を制して人間の性質を正したのである。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 3	23	③	3

2003 年本試

問 5 文章中の **B** に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ
選べ。 **23**

「世間虚仮，唯仏是真」——聖徳太子のこの言葉からは，現実世界をはかないもの
として否定する見方がうかがわれる。それとともに，在家にとどまりつつ仏教の普
及に尽かし，菩薩と仰がれた太子の生涯に照らすとき，ここに **B** をも 汲み取
りうるであろう。

- ① 理想を見据えて実現を志し，身をもって人々と仏との架橋を行おうという
信念
- ② 現実世界の万物は実体をもたず，因縁によって生じたり滅したりするとい
う考え
- ③ 穢れた現実世界を 厭^{いと}い離れ，極楽浄土への往生を願い求めよと説く呼び
かけ
- ④ 現実と理想との隔絶を見て取り，どんな思索も実践も無意味であるとする
絶望

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 5	23	①	3

2002 年追試

問 1 文章中の 20 に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

社会の秩序をどのような規範にもとづいて維持するかについては、様々な考え方がありうる。ここでは、「和」と「道理」について考えてみよう。たとえば「憲法十七条」を取りあげてみると、冒頭に「和をもって貴しとし、忤^{きから}うことなきを宗^{むね}とせよ」とある。これは、豪族を統括するための規範として「和」を掲げたものであり、その意図は論議が和やかな雰囲気の中で行われることを奨励するところにあった。間違いを犯す可能性のある人間として、相手の立場を互いに思いやりながら論議することの大切さを説いたものである。ここには、仏^{ほとけ}から見れば、人間は「20」として平等であるという観念が内包されている。このような人間相互の思いやりの精神が秩序の維持に不可欠だというのである。

- ① 群臣 ② 百姓^{ひやくせい} ③ 凡夫^{ぼんぷ} ④ 悪人

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 1	20	③	2